

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi



会長就任のごあいさつ

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
会長 松岡 優

会員、賛助会員の皆さまにおかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また日頃より当会の運営・活動にご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび、当会の役員改選に伴い、6月14日(金)に開催されました令和6年度公益社団法人埼玉県臨床検査技師会定時会員総会におきまして22名の理事が会員の承認を受けて選任され、引き続き行われました理事会にて私 松岡優が会長(代表理事)を務めさせていただくことになりました。謹んでご報告申し上げます。

令和4年12月に埼玉県医学検査学会が第50回と節目を迎え、記念式典が行われました。本年2月には当会の創立70周年記念式典・祝賀会を多くの来賓を迎え盛会に開催されました。歴史の重みを感じる出来事が立て続けに行われました。過去を紐解くと当会は、昭和28年に埼玉県細菌病理試験技術員会として55名で発足し、昭和60年に特例民法法人である社団法人埼玉県臨床衛生検査技師会となり、平成26年1月に公益社団法人埼玉県臨床検査技師会へと変遷しています。その間、18名の会長のリーダーシップのもとで会が健全に成長し続け、会員数3,500名を超える大きな組織となり諸先輩方の努力の賜であることと敬服いたしております。神山清志前会長よりバトンを引き継ぎましたが、歴代の会長方のような技師会活動に対する豊富な知識もカリスマ性も持ち合わせておりません。周りの皆さま方のお力添えを邁進力に変えて会務を進めていきたいと思っております。

現在の医療の中で臨床検査は必要不可欠であることは周知の事実となっております。精度の高い検査結果、他施設への受診でも変わらない検査結果など診療・治療に大きく貢献しています。また超音波検査などの生理機能検査の需要も増すばかりです。

近年の様々なAI化、医療DX(デジタルトランスフォーメーション)などは、私たちにまた違った働き方が求められることでしょう。目の前にある多様な業務の中での技師会活動は、さらなる効率化・省力化など新たな取り組みを進めていく必要があると感じています。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられ、早いもので1年以上が経過しました。コロナ前の日常が多く戻ってきています。技師会活動におきましても多くの会員に足を運んでもらえるような研修会・学会、多くの県民に足を運んでもらえるような各種健康まつり・市民公開講座など積極的に取り組んでいく所存です。

本年1月には能登半島地震がありました。近年埼玉県は大きな地震は起きておりませんが、ひとたび首都直下地震が起きれば、県内に大きな被害が想定されます。行政をはじめとした関係各所との災害への取り組みも積極的に進めていきます。

会員、賛助会員、県民の皆さまの期待にこたえられるような会務運営を役員一丸となり執り行う所存ですのでご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和6年度 公益社団法人埼玉県臨床検査技師会 定時会員総会が開催される

令和6年度公益社団法人埼玉県臨床検査技師会定時会員総会が令和6年6月14日(金)にRaiBoC Hall(市民会館おおみや)小ホールで開催された。

本総会の審議内容は令和5年度事業報告、収支決算報告、監査報告、第53回埼玉県医学検査学会会長選出および令和6・7年度理事の選任についてであった。

総会は長澤英一郎事務局次長の進行により行われた。はじめに神山清志会長の挨拶が行なわれ、参加された会員の皆様の日頃のご協力に感謝の意を表された。

続いて名誉会員の五内川里子氏、原繁一氏、津田聡一郎氏の紹介があった。

総会に先立ち各賞表彰式が行われ、令和6年度埼臨技功労者賞は矢作強志氏(第51回埼玉県医学検査学会学会長)に授与された。令和5年度埼臨技会誌優秀論文賞は神谷明氏(防衛医科大学校病院)に授与された。

永年会員表彰の前に、永年勤続表彰者の抽出方法に誤りがあり、36名の方が議案書不掲載となったことの報告および謝罪があった。この件については6月中に議案書の修正を行い、埼玉県臨床検査技師会ホームページに掲載予定となった。表彰状の授与は、令和6年度公益社団法人埼玉県臨床検査技師会臨時会員総会(令和7年3月予定)にて執り行うことが提案された。今回は議案書掲載37名の永年会員より6名が表彰された。

総会は議案審議に先立ち笹野勝年氏(社会医療法人熊谷総合病院)が議長に任命され、笹野議長より総会役員が指名された。資格審査委員長に佐瀬勝也氏(東松山医師会病院)、資格審査委員には東部地区から久保田亮氏(埼玉県立大学)、南部地区から神嶋敏子氏(埼玉県立小児医療センター)、西部地区から伊藤隆史氏(医療法人明晴会西武入間病院)北部地区から阿部健一郎氏(深谷赤十字病院)が任命された。

また書記には田立さやか氏(越谷市立病院)、赤岩千優氏(さいたま市立病院)が、議事録署名人には、幸田早貴氏(埼玉県済生会川口総合病院)、鶴岡慎悟氏(JCHO埼玉メディカルセンター)が任命された。

審議前に笹野議長は、「本日18時30分現在の出席者数は100名、委任状出席者数1,998名、議決権行使書数368名で、合計2,466名となる。この数は第一号から第二号議案を審議するための必要者数である3月1日現在の全員会員数3,633名の過半数を超えており、定款第18条の規定により本総会が成立する。」と宣言された。(議会の出席者確定人数は120名で合計2,486名)

議事審議は佐瀬議事運営委員長より議事日程が提案され、それに従い笹野議長の進行により開始された。定時会員総会の第一号議案である令和5年度事業報告について神山会長、第二号議案であ



埼臨技功労者表彰
矢作 強志氏(右)



埼臨技会誌 優秀論文賞
神谷 明氏(右)



永年会員表彰



議長 笹野 勝年氏

る令和5年度収支決算報告について松岡副会長、監査報告を遠藤敏彦監事よりそれぞれ説明があり、各議案とも質疑応答はなく、議決権行使書368名中、反対0名で、出席者拍手多数により承認された。

第三号議案である第53回埼玉県医学検査学会学会長選出は、神山会長より瀧沢義教氏（獨協医科大学埼玉医療センター）を推薦する旨の提案があり、異議なく承認され、瀧沢氏が挨拶を行った。続いて第四号議案である令和6・7年度理事の選任について神山会長より提案説明が行われ、新任理事6名を含む22名の理事が異議なく承認され、すべての議案が可決された。

総会終了後、木暮憲幸氏（52回埼玉県医学検査学会学会長）よりお知らせがあり、続いて各研究班より令和6・7年度研究班員の紹介があった。同時に行われた新理事による理事会にて、新会長に松岡優氏が選定され会員の皆様へ挨拶があった。

今回の総会をもって退任される神山清志氏、長澤英一郎氏、石井直美氏、松寄朋子氏、伊藤恵子氏、松尾千賀子氏より挨拶が行われ、最後に五内川里子氏より神山清志氏へ花束贈呈があり、感慨無量なか全ての日程が終了となった。

総会は、笹野議長の円滑な議事進行と出席していただいた会員の皆様のご協力により滞りなく開催ができた。笹野議長、総会役員ならびに会員の皆様に深謝する。

（文責：佐瀬勝也）

今回退任される理事の方々（記載順）



神山 清志氏 長澤 英一郎氏 石井 直美氏 松寄 朋子氏 伊藤 恵子氏 松尾 千賀子氏

退任される理事の皆様、埼玉県臨床検査技師会の運営にご尽力いただきありがとうございました。新任された理事の方々については、8月号にて紹介いたします。



埼臨技におけるタスクシフト/シェア 厚生労働大臣指定講習会受講状況と今後

平素より埼玉県臨床検査技師会の活動にご協力いただきありがとうございます。

埼玉県で2021年11月に始まったタスクシフト/シェア厚生労働大臣指定講習会ですが、2024年6月17日現在、24回の講習会が行われ、1,337名の埼臨技会員が受講を修了しました。またWebの基礎科目履修済みが180名、受講中が460名で合計660名が今後講習会を受講すると思われます。

埼臨技では月1回の講習会を計画しておりますが、講習会の定員は60名のため、この660名すべてが受講するためには11回、約1年の時間を要します。それに加え、未受講会員の方が約1,600名おります。

各県で行われる研修会は法律施行から5年の2026年9月頃に終了となります。検体採取の受講具合から予想すると最終的に2,000~2,500名の受講が予想され、終盤の2026年度は駆け込み受講も予想されます。しかし講師・実務委員の負担を考えると講習会の回数を増やすことは難しい現状です。

そのため、まだ未受講で今後受講を考えている会員の方は、混み合う前に早めの受講をお勧めします。

（文責：佐瀬勝也）

第52回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開 催 日：令和6年12月8日(日)

会 場：ソニックシティ

テ ー マ：Challenge!

サブテーマ：～多様化するニーズへの実践と進化～



第52回埼玉県医学検査学会 会計部長 石井 直美

第52回埼玉県医学検査学会の会計部長を務めさせていただきます、越谷市立病院の石井直美と申します。

会計的にも上手く運用できていた第51回学会を引き継ぐ立場としては荷が重い部分もありますが、参加者にとって実りのある学会となるよう精一杯取り組んでまいります。

第52回学会実行委員メンバーは、しっかりした若手が多く、とても頼もしく感じます。いよいよ本格的な夏到来を感じる季節となりますが、暑さに負けないよう実行委員一丸となって準備を進め、Challenge!してまいりますので、楽しみにしてください。

第50回学会から使用している「Peatix」アプリを今回も事前決済に使用しますので、アカウントの削除やアプリのアンインストールは行わないようお願いいたします。

詳細が決まりましたら、学会HPやLINEでもお知らせいたしますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第52回埼玉県医学検査学会 運営部長 脇谷 浩之

第52回埼玉県医学検査学会で運営部長を務めさせていただきます、浦和医師会メディカルセンターの脇谷と申します。

52回学会では前回学会と同様に「Peatix」を利用した事前参加登録を行う予定です。受付の混雑緩和に有効なため是非ご利用を検討ください。またHPとLINEも稼働しているのでよろしければ閲覧、下記QRコードの登録をお願いいたします。

今回の学会が新たな刺激と交流の場となり、つぎのchallenge!に繋がる有意義な時間になるよう学会運営を行ってまいりますので、ご参加お待ちしております。

公式LINEにて情報配信中 →
ぜひご登録ください! →



研究班研修会報告

テーマ 令和5年度 埼玉県医師会臨床検査精度管理調査 画像サーベイ報告会(生理)

主催 生理検査研究班

実施日時：2024年4月28日 13時00分～16時00分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科-20点

報告1：心電図

講師1：工藤 淳子(学校法人北里研究所 北里大学メディカルセンター)
：南雲 涼太(埼玉県済生会川口総合病院)

報告2：呼吸機能

講師2：武藤 由里子(医療生協さいたま生活協同組合 埼玉協同病院)

報告3：脳波

講師3：福地 聡子(医療法人社団武蔵野会 TMGあさか医療センター)

報告4：心臓超音波

講師4：南雲 涼太(埼玉県済生会川口総合病院)

報告5：腹部超音波

講師5：小宮山 英幸(医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院)
石丸 直(埼玉医科大学病院)

報告6：乳腺超音波

講師6：横尾 愛(川口市立医療センター)

報告7：血管超音波

講師7：野村 和弘(埼玉医科大学病院)

参加人数：会員32名

出席した研究班班員：南雲涼太 工藤淳子 横尾愛 野村和弘 新井雅人 松平悠 島内一輝

研修内容の概要・感想など

2023年度に実施した「埼玉県医師会臨床検査精度管理調査 画像サーベイ」について結果報告および設問の解説を行った。本サーベイは前年度までは「埼臨技 生理検査研究班Webサーベイ」として開催していたが、本年度より埼玉県医師会臨床検査精度管理調査へ移行となり、施設ごとの評価を実施するよう変更となっている。

サーベイは正答率80%を目標に全25問の出題であったが6問が80%を下回った。本サーベイでは原則正答率80%未満のものを評価対象外としておりそのうち5問が評価対象外とされた。

「発汗によるアーチファクトとその対応」を問う脳波の設問は、正答率75%と80%に満たなかったが、アーチファクトへの対処は技師として知っておくべき知識であることから評価対象となった。心電図の設問では正答が複数考えられることからこちらも評価対象外とした。正答率でみると脳波が3問中2問、腹部エコーは6問中3問が80%を下回り、正答率が比較的低いように感じた。

今年度のサーベイより施設ごとの評価を実施したことから、より評価が詳細となりISO15189をはじめとする各施設の精度管理業務の一助になったと考えられる。反面、評価対象外となった問題も多く見受けられ、問題の難易度調整が改めて必要である。これらのことを課題とし今後の研究班としての活動に役立てたい。

(文責：新井雅人)

テーマ 知らなきゃ損!? part13 ～ 標本作製プラスワンが活きた症例 ～

主催 細胞検査研究班

実施日時：2024年5月17日 18時00分～19時30分

会場：浦和コミュニティセンター 第14集会室 教科・点数：基礎教科－20点

講演1：EBUS-TBNA ～ ベッドサイドで経験した1症例 ～

講師1：鶴岡 慎悟（独立行政法人地域医療機能推進機構埼玉メディカルセンター 病理診断科）

講演2：LBC標本 ～ CellPrep auto標本に焦点を当てて ～

講師2：猪山 和美（自治医科大学附属さいたま医療センター）

講演3：髄液細胞診 ～ LBCが有効活用できた1症例 ～

講師3：中山 美咲（防衛医科大学校病院）

参加人数：会員46名

出席した研究班班員：鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 加藤智美 猪山和美 野本伊織
小川弘美 並木幸子 稲山拓司

研修内容の概要・感想など

本研修会の「知らなきゃ損!？」は、例年技術的な内容に焦点を当て、これから病理細胞診検査に携わる新人技師を主な対象として研修会を開催している。今回で13回目となる研修会のテーマは「標本作製プラスワンが活きた症例」とし、鶴岡氏、猪山氏、中山氏から講演が行われた。

講演1では、鶴岡氏が「EBUS-TBNA ～ベッドサイドで経験した1症例～」と題して講演を行なった。EBUS-TBNA（超音波気管支鏡ガイド下針生検）で経験した症例をもとに、成書やマニュアルを参考にした従来の方法（以下従来法）に加え、臨床とのやり取りの中でプラスワンした診断に寄与した例について解説した。参加者からは臨床医との関係構築に関する質問があり、活発な討議が行われた。講演では、ベッドサイドでの標本作製は、臨床医との積極的なコミュニケーションが重要であると強調されていた。

講演2では、猪山氏が「LBC標本 ～Cellprep auto標本に焦点を当てて～」と題し、従来法に加えてLBC標本を活用した症例について解説した。残余検体をLBC保存液に確保しておくことで追加検査が可能であることや、その結果から判定診断が変わる場合もあることが示された。講演では、標本作製技術やLBC標本の活用について詳述された。

講演3では、中山氏が「髄液細胞診 ～LBCが有効活用できた1症例～」と題し、LBC標本が診断に寄与した症例を提示した。

LBCをテーマとした2つの講演終了後、LBC標本作製と細胞像について議論が行われた。LBC標本は細胞の収縮などの従来法と異なる細胞像を示すため、判定診断の際には慎重さが求められるが、細胞の保持には優れた方法であり、併用することで有効活用できると意見がまとめられた。

これから細胞検査業務に携わる技師の方々には、標本作製が判定や診断に与える影響を認識し、日々の業務と研鑽に励んでいただきたい。

(文責：鶴岡慎悟)

テーマ 誰でもわかる院内感染のポイント 細菌～ウイルスまで

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：2024年5月17日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講師：霜島 正浩（株式会社スギヤマゲン）

参加人数：会員111名 賛助会員1名

出席した研究班班員：菊地孝司 鈴木由美子 坂田竜二 吉田翔平

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は『誰でもわかる院内感染のポイント 細菌～ウイルスまで』をテーマに霜島

氏が講演した。

院内感染とは病院内に感染源が存在し、患者、患者の家族や面会者、医療従事者などが暴露されて感染することで、その感染源は患者、医療従事者、医療機器、院内の環境など様々である。多くの微生物やウイルスが院内感染を引き起こす可能性を持っており、特に高齢者や免疫力の低下している人では、病原性の弱い微生物などでも院内感染を起こすことがある。

院内感染を引き起こしやすい微生物には結核菌、クロストリジオイデス・ディフィシル、セラチアなどや、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）や多剤耐性緑膿菌（MDRP）などの薬剤耐性菌がある。ウイルスではインフルエンザウイルス、ノロウイルス、麻疹ウイルスなどが院内感染の原因になることが多い。これらの病原体の感染経路は接触感染、飛沫感染、空気感染の3つである。接触感染は感染者に直接接触することで感染する直接接触感染と、医療従事者の手や使用した医療器具、タオルなどの物体を介して病原体が間接的に触れることで広がっていく間接触感染がある。飛沫感染は咳やくしゃみ、近距離での会話などにより病原体を含む飛沫が、結膜や鼻粘膜などに付着することで感染する様式である。空気感染は病原体を含む飛沫の水分が蒸発し、5 μm以下の飛沫核になったものが空気の流れによって広範囲に拡散し、その飛沫核を吸入することで感染する様式である。

院内感染を予防するために、標準予防策は非常に効果的であるが、基本的な手指衛生などが正しく実施できているかどうか改めて確認してもらいたい。防護具の使用にあたっては、正しい装着方法を習得するために、施設内での定期的なトレーニングが大事であるとのアドバイスがあった。また、標準予防策以上の予防策を必要とする病原体に感染している場合には、感染経路別予防策を実施する必要がある、病原体ごとに院内感染を予防するための知識を身につけておかなければならない。

院内感染に関わる知識は一部の職種に限らず、病院内で従事する全てのスタッフに必要であることを改めて知る研修会であった。参加された皆様には、研修会で得た知識を施設の仲間たちに広めていただきたい。

(文責：吉田翔平)

テーマ 自施設での新人・異動者に対する教育体制をもう一度見直そう！

主催 輸血検査研究班

実施日時：2024年5月17日 19時00分～21時00分

会 場：ソニックシティビル 602会議室 教科・点数：基礎教科－20点

講 演 1：令和5年度 埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告

講 師 1：渡邊 一儀（獨協医科大学埼玉医療センター）

講 演 2：輸血検査における教育体制について

講 師 2：宮澤 翔子（埼玉県済生会川口総合病院）

講 演 3：I&Aの取得について

講 師 3：長谷川 卓也（上尾中央医科グループ 八潮中央総合病院）

参加人数：会員18名

出席した研究班班員：宮澤翔子 岩崎篤史 廣田渉 佐々木翔太 大垣秀友 志村祥太

研修内容の概要・感想など

令和6年度第1回目の輸血検査研究班研修会であった。「自施設での新人・異動者に対する教育体制をもう一度見直そう！」をテーマとして、輸血検査の教育におけるポイントの説明やI&A制度の解説があり、各施設の輸血検査体制の在り方を考えるうえで参考となる内容であった。

始めに、渡邊氏より令和5年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告があった。試料準備から評価の集計に至るまでの一連の流れについての説明があり、参加施設数・配付試料の内容・検査方法の推移・各試料の結果及び評価について報告があった。RhD血液型は輸血においてABO血液型と同様に非常に重要な血液型である。検査の際は誤判定を防止するため、Rhコントロール試薬を使用して検査を実施する必要があるが、実施していない施設もあった

(C判定)。また、結果の入力間違いや試料の取り違えと思われる結果を報告している施設が見受けられた (D判定)。日常検査においても正確な手技で検査を行い、結果報告まで責任を持って行うことが必要であると感じた。

宮澤氏の講演では、輸血検査 (基本操作・血液型検査・不規則抗体検査・交差適合試験) の基本的な手技について説明があった。赤血球浮遊液の適切な濃度や部分凝集が認められた凝集像など写真を交えて解説され、明日からの業務にも役立つ内容であった。講演の最後には臨床へ結果報告する際のポイントについて説明があり、講演の内容を自施設に持ち帰り、新人教育の参考にしたい。

長谷川氏の講演では輸血機能評価認定 (I&A) 制度の認定基準や実際に認定を受けるまでの流れについて説明があった。I&Aの目的は、輸血用血液や分画製剤の適正使用を徹底することと、輸血の安全を保証することで、より安全な輸血管理が行われることを目指すというものである。認定を受けるためには、申し込み後、視察員による視察が行われる。34項目の認定事項、42項目の重要事項をもとに輸血部・病棟などで視察が行われ、認定事項を満たしていれば認定となる。埼玉県内では4施設が認定施設となっている。外部認定を受けることで自施設の輸血管理体制に対する客観的な評価が得られ、さらには安全な輸血療法を提供できているという自信にも繋がる。

今回の講演が日々の業務の見直しを検討するきっかけとなること、また各施設での教育体制や輸血管理体制の構築の一助となることを期待する。

(文責：廣田渉)

テーマ **臨床化学初心者必見!! 新人に知ってほしいインシデント、トラブル集**

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：2024年5月24日 19時00分～20時30分

会 場：ソニックシティビル 603会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講 演 1：エラーを見極めよう

講 師 1：稲葉 拓郎 (株式会社アムル 上尾中央臨床検査研究所)

講 演 2：ピットフォールから学ぼう

講 師 2：北川 裕太朗 (埼玉医科大学病院)

参加人数：会員40名

出席した研究班班員：北川裕太朗 廣瀬良磨 杉村楓 永井謙一 福島渉 稲葉拓郎

田中満里奈 河野邊和弘 関根梢恵

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では、「臨床化学初心者必見!!」というテーマで、臨床化学分野の新人向けに2つの講演を行った。

「エラーを見極めよう」では、新研究班員の稲葉氏が講演した。人は間違いをしてしまうものであるが大事故につながる失敗は防がなければならない。検体検査ではどのように防ぐかを考えた場合、値を見逃さずに見つけることが重要である。異常値といっても機器や試薬、手技、検体由来など原因は様々であり、それらの可能性を考えていく必要がある。今回は7つの事例を問題形式で紹介していった。事例の内容としては、①ラベルの貼り間違い②キャリブレーター表示値の入れ間違い③気泡混入によるサンプリング異常④ランプの劣化⑤検体の濃度勾配による影響⑥輸液の混入⑦尿検体での異常値の事例があり、それぞれについて説明があった。

私が驚いた事例は⑤検体の濃度勾配による影響で、凍結検体を均一化せずに検査してしまったという内容であった。当院では凍結した検体を測定する事例に遭遇したことがない。講師の施設では凍結検体を測定するため新しい発見があった。しかし、当院では凍結品のコントロール試料を使用しているため同じことが起きる可能性がある。今後、留意しておかなければと思った。

「ピットフォールから学ぼう」では、班長の北川氏が講演した。新卒採用の新人には聞き馴染みがない言葉であるピットフォール。これが何かの説明から入り、3つの事例から

ピットフォールについての理解を深めることできた。今回の事例では①Kの異常高値となったケースとその原因②不自然なパニック値と輸液混入による影響③乳びが強く結果が出ない場合の問題点と対処法の内容を紹介、解説があった。

Kの異常高値となる原因は多くあるが、今回の講演では遭遇しやすいものを一覧として挙げ、ひとつひとつ解説いただいた。そのなかの偽性高カリウム血症は血小板や白血球が多いことに起因する高カリウム血症であるが、判断が難しく、再採血の依頼をすべきか悩むことが多い。今後、参考となる基準等があればよいと感じた。

2題の講演は遭遇しやすいトラブルやピットフォールであり、初心者でも非常にわかりやすい内容となっていた。今後も初心者からベテランまで勉強になる研修会を開催していきたい。

(文責：杉村楓)

テーマ 質量分析の基礎と臨床応用

主催 血清検査研究班

実施日時：2024年5月24日 19時00分～20時30分

会 場：ソニックシティビル 905会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講 師：谷川 哲夫（株式会社島津製作所 分析計測事業部 ダイアグノスティクス統括部）

参加人数：会員7名 賛助会員1名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 岡倉勇太 深田愛 森圭介

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では、質量分析装置の原理を中心に、質量分析装置で測定できる検査項目についての講演内容であった。

質量分析は、乱用薬物の検出や環境・食品の残留農薬の検出など医療分野以外でも幅広く使用されている分析方法である。測定原理はLCやGCといったクロマトグラフィーを利用し、目的物質と固定相との相互作用の違いを利用して化合物を分離し、化合物は電子衝撃イオン化法(EI)やマトリックス支援レーザー脱離イオン化法(MALDI)などによりイオン化される。遊離したイオンは検出器にてイオンの質量が分布化されることで目的物質を同定・定量することができる。

臨床検査で使用されている質量分析装置は多彩であり、微生物同定で主に使用されるMALDI-TOF/MSは培養した菌体を試料とし分析することで、測定から10分程度で菌種の同定ができる。またMALDI-TOF/MSにてアミロイドβ関連ペプチド(APP)の質量分析を行うことにより脳内のアミロイドβ蓄積の予測を可能としている。Q-TOF/MSやTQ/MSは標準物質無しで235成分の薬毒物スクリーニングと簡易定量することができ、法医学や救命救急分野で活躍している他、TQ/MSは新生児マススクリーニングに使用され、少量のサンプルから多種のアミノ酸・アシルカルニチンをスクリーニング分析できる。

Q-TOF/MSやTQ/MSで測定できる血中薬物濃度は免疫測定法で測定可能である。質量分析法は免疫測定法と比較して特異性に優れ1測定で多項目測定可能なメリットがある一方、検体の前処理や機器操作が煩雑であり、測定作業が概ね手作業で行われていることが課題とされている。近年検体の前処理から測定まで全自動で行う質量分析装置が開発されており、課題が解消されることが望まれる。

質量分析法の新しい測定法には、抗体分子測定法がある。これはモノクローナル抗体のFab領域(抗原抗体結合部位)を限定的に分解し、生じたFab由来のペプチド断片をLC/MSを用いて定量する測定法であり、トラスツズマブやベバシズマブなど抗体治療薬の血中濃度測定に応用できるとされている。そのほかにも、各イオン化法・マススペクトル検出法の特徴やシングルMSとトリプルMSの違いなど、質量分析について多彩な講演内容であった。

質量分析測定は現状使われている施設も少なく臨床検査現場においても馴染みのない測定原理であるが、近年注目されている分析方法であり今後の発展と臨床検査現場への浸透を期待する。

(文責：渡邊剛)

テーマ **2024年CLSIドキュメントの変更点について**

主催 微生物検査研究班

実施日時：2024年5月24日 19時00分～20時30分

会場：ソニックシティビル 601会議室 教科・点数：専門教科－20点

講師：原 みゆき（ベックマン・コールター株式会社）

参加人数：会員30名 賛助会員5名

出席した研究班班員：酒井利育 岸井こずゑ 今井英美 佐々木真一 伊波嵩之 渡辺駿介
大塚聖也 山本早紀

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は「2024年CLSIドキュメントの変更点」について原氏を講師に開催した。CLSIの一部ドキュメントはホームページから無料で閲覧することができる。今年から閲覧の際にログイン画面が表示されるようになったため、まずはユーザー登録方法について紹介があった。ホームページのTOP画面右上にあるサインインから名前や病院名、メールアドレスなどの必要事項を入力・登録することでドキュメントの閲覧が可能となる。急にログイン画面が表示されるようになり、戸惑った方も多かったのではないだろうか。簡単に登録可能なため、まだの方はぜひ試していただきたい。

次にM100ドキュメントの変更点について解説があった。Table 1では薬剤感受性検査を実施・報告すべき抗菌薬が、菌グループ毎に記載されている。報告薬剤はTier 1～4の4つのグループに分けられており、Tier 1から順に最初に感性となったグループの薬剤を報告することが望ましいとされている。ED34ではこれまでの菌グループに*Neisseria meningitidis*が新たに追加となった。嫌気性菌についてはED33ではグラム陽性菌、グラム陰性菌でグループが分かれていたが、嫌気性菌として1グループにまとめられた。Table 2では菌グループ毎のブレイクポイントが記載されているが、ED34では*Salmonella* and *Shigella* sp.がEnterobacteralesから新たに独立した。元々*Salmonella* sp.と*Shigella* sp.ではEnterobacteralesと異なるブレイクポイントが設定されている薬剤や報告対象外の薬剤があったため、Tableが分かれたことで表が見やすく改善されている。*Stenotrophomonas maltophilia*ではMINOのブレイクポイント変更とCAZのブレイクポイント削除があった。またST合剤について抗菌薬治療に単独で使用すべきでないとのコメントが追加となっている。そのほかとしてはEnterobacteralesでカルバペネマーゼ産生が確認された株については、CFPMの“S”“SDD”の結果は報告すべきでないとのコメントが追加されたと報告があった。

CLSI M100ドキュメントは毎年改訂されている。変更点はドキュメントの“Overview of Changes”にも記載されているが、研修会で解説を聴くことでより理解が深まると思われた。

(文責：今井英美)

テーマ **初心者・若手技師必見！「病理標本作製の基本技術」**

主催 病理検査研究班

実施日時：2024年5月24日 19時00分～21時00分

会場：浦和コミュニティーセンター 第13会議室 教科・点数：基礎教科－20点

講演 1：薄切時における現象と対策

講師 1：山本 竜一（大和光機工業株式会社）

講演 2：包埋の基礎

講師 2：細沼 佑介（埼玉医科大学国際医療センター病理診断部）

講演 3：染色の基礎 ～ HE染色を中心に ～

講師 3：三鍋 慎也（防衛医科大学校病院）

参加人数：会員64名 非会員4名（入会申請中2名、その他2名）

出席した研究班班員：三鍋慎也 細沼佑介 小島朋子 松本祐弥 遠山人成 二ツ橋雄一
渋谷樹 三瓶祐也 佐藤達也

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は初心者や若手技師向けに、標本作製の基本をテーマに開催した。

山本氏は薄切において発生する現象や対策について、動画を効果的に活用し、わかりやすく説明した。薄切不良の原因は環境面では静電気、温度変化があり、技術面では引き角、リトラームのハンドル操作などが挙げられた。静電気に対する対策は浸水であり、冷却や加湿器によりパラフィンブロックの表面に水分をまとわせることで静電気の発生を抑えることが可能とのことであった。また、温度変化に対しては薄切のリズムを変えないこと、引き角は適切な角度を設定すること、ハンドルは強く握らないことなど、薄切技術の習得も必要であるとわかった。

細沼氏は、包埋作業におけるポイントや業務の実際を講演した。良い包埋の大前提として固定・脱脂・脱水がしっかりと行われて中間剤が除去されている状態であり、診断に適した標本作製には薄切しやすい、あるいは診断しやすいホルマリン固定パラフィン包埋 (FFPE) ブロック (以下: FFPEブロック) を心がけて作製することが重要ということであった。包埋作業時には紛失やコンタミネーションが起りやすいため、紛失防止対策やピンセットなどのふき取り、凝固しきっていないブロックを無理にはがさないことなどが紹介された。また、薄切り時の消失の対策としては、1つのブロックに生検検体を複数包埋しないことなどが大切であるとのことであった。また、FFPEブロック作製時の温度が低いと気泡の混入に繋がるため、包埋皿・パラフィン・検体が温かい状態で作業を行う必要があるとのことであった。日々の業務での品質向上に繋がる講演であった。

三鍋氏は主にHE染色について、原理を踏まえ、さらに各工程での検討や検証を加えた内容の講演を行った。脱パラフィンの工程では、時間・気温・キシレンの質が重要であり、室温20度前後の場合10分程度が適しているとのことであった。HE染色の工程では、陽イオンと陰イオンの反応が重要であり、分別や水道水による色出しにおいても水素イオンの有無が影響しているとのことであった。脱水不良では標本全体に透明感が無く、持ち込まれた水分に色素が溶け出し退色しやすくなり、封入剤の不良では時間が経つとキシレンが乾燥して気泡の混入に繋がることなどの基本技術を詳細に解説された。原理を理解して作業することは不具合が起きた際への対処が可能となるうえ、病理医の細かな染色要望にも応えることができることから、非常に重要であると感じた。

いずれの講演も日常業務にすぐに取り入れることができる内容であり、今回の講演内容をもって、多くの施設でより良い標本作製が実践されることを期待したい。

(文責: 渋谷樹 佐藤達也)

テーマ **血液検査室からの臨床に直結するアプローチと情報発信**

- ・血小板減少 “特にLD/PLT比からわかる事とその有用性”
- ・MDS症例における血算機器とその情報

主催 血液検査研究班

実施日時: 2024年5月24日 19時00分~21時00分

会場: さいたま市民会館 おおみや(RaiBoC Hall) 6階 集会室1

教科・点数: 専門教科-20点

講師: 大畑 雅彦 (ベックマン・コールター株式会社)

参加人数: 会員32名 賛助会員5名

出席した研究班班員: 中山智史 堀口大介 澁川絵美 石田沙妃 窪田勝己 山崎淳也

島田崇史

研修内容の概要・感想など

血小板減少の鑑別例・血小板減少の原因疾患と頻度・血小板減少症のアルゴリズムについて、解説が行われた。また血小板減少の原因となる播種性血管内凝固 (DIC) について、DIC発症例の多い基礎疾患とDICを生じる頻度の高い基礎疾患では異なり、DIC発症頻度の高い疾患を覚えておくことが特に重要であるとのことだった。そして検査室で行われている血小板数と臨床化

学検査のLDの値から算出したLD/PLT比は、発症前の早期の段階でDIC検出に有用であると話があった。特殊な検査項目ではなく、日頃依頼されることの多い血小板数と臨床化学検査のLDで求められたLD/PLT比によって、新たな分析機導入や費用をかけず簡便にDICの検出に用いることができること知り、臨床への新たな情報提供のツールとして有用であると感じた。

骨髄異形成症候群（MDS）の病態の概要・遺伝子変異とその頻度、骨髄塗抹標本作成と標本の観察や形態学的所見について、多くの細胞を示しながら基礎から解説が行われた。特に正常人の骨髄でも50～100個判定するとき、軽微な核融解像を認める赤芽球は最大20%程度（通常5%）存在し、一方、MDSの多くの症例ではこれらが50%を超えてくるため、赤芽球の異常は定量的に判定することが重要であるとのことだった。血球計数装置から得られる網赤血球の絶対数・MPV・RDWの3つのデータは、MDSを客観的にスクリーニングする効率的な指標として有用であることが分かった。今回の研修で、検査データを多角的に見ることで新たな気づきが生まれ、知識の積み重ねを継続することが正確な結果報告や診断の一助になると感じた。

（文責：島田崇史）

テーマ 必見！ 一般検査のポイント

主催 一般検査研究班

実施日時：2024年5月28日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 教科・点数：基礎教科ー20点

講師：江見 尚悟（アークレイマーケティング株式会社）

参加人数：会員126名

出席した研究班班員：藤村和夫 柿沼智史 渡邊裕樹 中川禎己 小針奈穂美 松本実華
織田喜子 林達矢 福島明音

研修内容の概要・感想など

今年度最初の一般検査研究班主催の研修会をWeb環境にて開催した。

講師の江見氏からは、「必見！一般検査のポイント」をテーマに尿検体の採取から試験紙の保存方法、尿定性、尿沈渣検査と幅広い内容の講演であった。

採尿方法は中間尿で尿沈渣検査を行うことが一般的である。これは、初尿で検査を行った場合に外尿道口付近や膣前庭部の細胞、血球、細菌のコンタミネーションが起きやすいからだ。講演の中で、初尿と中間尿の尿沈渣結果の比較を行った結果が提示され、RBC数は中間尿に比べて初尿では約2倍、WBC数は約3倍、EC（上皮細胞）数は約4倍、BACT（細菌）数は1.5倍多くなるとのことだ。初尿で尿沈渣検査を行った場合に、具体的にどのくらい検査結果に影響があるのか示されている文献は少ない。とても貴重な情報であった。

尿試験紙は適切な保管がされていない場合、すぐに劣化をし、検査結果に影響を及ぼす。中でも、Gluは湿気の影響を受けやすく、偽陽性になりやすい。そのため、尿試験紙は湿気、直射日光、高温（30度以上）を避けて密栓して保存することが大事であり、夏場で30度以上になってしまう場合は、冷蔵庫で保存をすることを勧めるが、効力のある乾燥剤とともに保存することが重要であるとのことだった。このような試験紙の劣化等を確認するために、精度管理試料を用いて内部精度管理を実施している施設は多いが、埼玉県内の全ての施設で実施されているわけではない。この様なご施設では、定性検査を行う前に【Gluのパットの色調確認】をすることで、内部精度管理の一環になり得ると考えられた。

今回は新人や日当直担当者向けに企画した内容であったが、日常業務に役立つ内容が多く、新人～ベテランまでとても参考になる内容であった。

（文責：藤村和夫）

令和6年度埼臨技会員名簿作成についてのお願い

1. 新入職員の会員登録はお済でしょうか？

令和6年9月30日(月)の登録情報をもとに名簿作成しますので、早めのご入会をお願いいたします。

2. 勤務先が変わった方、登録変更はお済でしょうか？

今年度より異動等で勤務先が変わった方は、日臨技ホームページの会員ページより新勤務先登録をお願いいたします。登録ができない方は、下記までご連絡ください。

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会事務所

TEL : 048-824-4077 FAX : 048-824-4095

E-mail : sairingi@sairingi.com

3. 令和6年度会員名簿の配布について

会員名簿は冊子にて発行し、各施設、賛助会員に1部ずつ配布いたします。

個人的に希望される方は、下記のクエスタントURLまたはQRコードよりお申込みください。

12月中旬に発送予定です。

今回から技師長◎と施設連絡先○の表示を廃止します。

なお、定款、技師会役員名簿、委員会名簿、研究班名簿はホームページに掲載いたしました。

申込期限：令和6年7月17日(水)～令和6年8月16日(金)まで

<https://questant.jp/q/0AWH3EM8>



4. 名簿不掲載のお申込みについて

不掲載を希望される方は、下記のクエスタントURLまたはQRコードよりお申込みください。

なお、以前より不掲載を希望されていた方につきましては、本年度も継続となりますので連絡は不要です。

申込期限：令和6年7月17日(水)～令和6年8月16日(金)まで

<https://questant.jp/q/OYDOGQJ6>



**令和6年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第3回 理事会議事録**

日時：令和6年6月6日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 山口 濱本
長澤 松寄 阿部 松尾 佐瀬
網野 三木 塚原 神嶋
伊藤(恵) 伊藤(隆) 長岡
久保田 長谷川 石井 神戸
小林

(監事) 遠藤

欠席：(監事) 細谷

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和6年5月9日～令和6年6月5日)

5月9日(木) 令和6年度第2回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、
長澤、松寄、阿部、松尾、網野、
佐瀬、三木、塚原、神嶋、
伊藤(恵)、伊藤(隆)、長岡、
久保田、長谷川、神戸、石井、
小林、遠藤、細谷

5月9日(木) 第1回事業部会議：

塚原、伊藤(恵)、神嶋、伊藤(隆)

5月10日(金)～12日(日)

第73回日本医学検査学会：神山

5月16日(木) 第52回埼玉県医学検査学会実行委員会：三木、佐瀬

5月30日(木) 第24回わらび健康まつり第1回実行委員会：塚原

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

- 5月16日(木) 第31回埼玉糖尿病教育セミナーに対する後援を回答した。
- 5月24日(金) 総務省統計局より経済センサス-基礎調査(5年に1度)の回答依頼があり、松岡優副会長が回答した。
- 5月31日(金) 埼臨技事務所近隣の住居工事に伴う境界線の確認依頼があった。
- 5月31日(金) 日本郵便さいたま新都心郵便局よりゆうパック運賃値上げの通知があった。

2 総務部

- 5月23日 女子栄養大学にタスクシフト備品を貸し出した。
- 6月15日(土) だより第541号発行予定。
- だより5月号(第540号)にて氏名間違いがあった件について

無料でPDFの作り直しをした。また石井印刷に原因究明と再発防止策を依頼した。また、総務部内では、特に施設名・氏名チェックをしっかりと行うことを確認した。

3 事業部

- 5月7日(火) 第1回検査室管理運営委員会会議を開催した。(別紙資料1)
- 5月9日(木) 第1回事業部会議を開催した。(別紙資料2)
- 5月30日(木) 第24回わらび健康まつり第1回実行委員会へ参加した。(別紙資料3)
- 6月3日(月) 全国「検査と健康展」企画書・予算書概要を日臨技事務局へ提出した。(別紙資料4)

- 検査室管理運営委員会研修会について
9月26日(木) 19:00～20:00予定

講演：知っておきたい！

検査と診療報酬(改定)について

～診療報酬情報を明日からの検査室
管理運営に活かしていこう～

講師：伊澤 真砂樹 氏

(栄研化学株式会社)

4 学術部

- 6月3日(月) 8・9月生涯教育研修プログラムを埼臨技ホームページに掲載した。
- 7月8日(月) 理事・研究班合同会議をさいたま市赤十字病院にて開催予定。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

- 1) 令和6年度正会員費100名500,000円、入金金60名60,000円、再入金金2名2,000円、合計562,000円の入金があった。
- 2) 株式会社サンメディアより複製利用許諾の実績金額1,155円(7件)の入金があった。
- 3) 株式会社メテオより2024年度文献許諾使用料5,288円の入金があった。
- 4) 石井印刷へ、埼臨技だより第540号Web版8P 41,800円を支払った。
- 5) NEC ネットエスアイ(株)へZoomライセンス更新料145,200円を支払った。
- 6) Square利用状況(4月~5月)について報告があった。(別紙資料5)

7 精度管理委員会

特になし

8 一都八県会長会議

特になし

9 日臨技関甲信支部

特になし

10 日臨技

- 1) 6月22日(土)令和6年度定時総会 開催予定。

11 第52回埼玉県医学検査学会

- 1) 5月16日(木)第8回実行委員会が開催された。(別紙資料6)

Ⅲ. 承認事項**1 事務局**

- 1) 会員動向(令和6年度分)

令和6年6月1日現在
会員数 3,633名[令和5年度会員数3,572名]
(新入会員 187名)
賛助会員 58社[令和5年度 71社]
承認された。

- 2) 埼臨技事務局夏期休暇について

上記の件について、濱本隆明事務局長から発言があり、審議の結果、8月13日(火)から8月16日(金)まで夏季休暇とすることが承認された。

- 3) 令和6年度永年会員表彰の抽出漏れについて

上記の件について、濱本隆明事務局長か

ら発言があり、審議の結果、抽出漏れのあった対象の会員37名の表彰が承認された。なお、対象者には謝罪文を送付し、令和6年度臨時会員総会(令和7年3月予定)で表彰することもあわせて承認された。

2 総務部

- 1) Googleアカウントについて

埼臨技総務部のアカウントを作成し、運用したい。

上記の件について、阿部健一郎総務部長より発言があり、審議の結果、承認された

3 事業部

特になし

4 学術部

- 1) 輸血検査研究班班員追加について

東松山市立市民病院 臨床検査科
渡邊 寧々氏 会員番号: 722689

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、今年度内の日臨技生涯教育の履修を条件に承認された。

- 2) 公衆衛生検査研究班事業変更について

7月変更前「薬物乱用防止」

変更後「抗酸菌感染症の疫学と検査法」

9月変更前「感染症の動向」

変更後「他施設で働く検査技師のお仕事について」

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 3) 埼臨技学術事業データ使用願いについて

(別紙資料7)

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第52回埼玉県医学検査学会

特になし

IV. 議題

1 事務局

1) 委員会規程の改定について

(別紙資料8)

上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、委員会規程にタスクシフト/シェア指定講習会運営委員会について追加することが可決された。

2) 組織運営規程の改定について

(別紙資料9)

上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、可決された。

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。



埼臨技事務所の夏季休暇について

令和6年8月13日(火)～16日(金)

上記期間は事務員が不在となりますので、
ご承知おきください。

あ と が き

7月26日からパリオリンピックが開催されます。なにかと騒がれていた東京オリンピックがついに先日終わったような気がしていましたが、もうオリンピックの時期なのですね。年を重ねると月日が経つのが早いといいますが、それだけ私も年を取ったということなのでしょう。なにかの雑誌に書いてありましたが、子供の頃は新しいこと(刺激)がたくさんあるため、1年が長く感じるそうです。確かに、小中学生の頃は楽しい夏休みがくるのがとても長く感じていた記憶があります。

この夏は、人並みならぬ努力と精神力で選ばれし日本のオリンピック選手団を応援しつつ、自身も常にチャレンジ精神(刺激を求めて?)をもって、仕事もプライベートも充実していきたいと思う今日この頃です。



(阿部 記)